

わたしのもとに來なさい

(マタイ11・25～30)

一、啓示によって

25節から30節は、祈りのことは(25～26節)、祈りの続き、ないしはひとり言、あるいは弟子たちに語ったことば(27節)、多くの人に語られたことば(28～30節)、の三つが織り交ざっています。それぞれのことばに耳を傾けてまいりましょう。

まず、主イエスの祈りです。25節の力ギ括弧以降です。△「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。」です。△これらのこととは、主イエスが、神が遣わされた救い主キリストにして、神御自身であることです。それは、当時の「知恵のある者」には分かりませんでした。キリストと出会うか否かは、人間には決められない領域のことだからです。人は何によってキリストを知り、神を知るのでしょうか。それは啓示によります。啓示とは覆いが除かれることです。

二、主イエスに渡された

続いて、27節です。△「すべてのごとが、わたしの父からわたしに渡されています。父のほかに子を知っている者はな

く、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかに、父を知っている者はだれもいません。」とあります。これが主イエスの祈りのことばの続きなのか、ひとり言なのか、弟子たちに語ったことばであるのかははっきりしません。とにかく、△「すべてのごとが、わたしの父からわたしに渡されています。」と、主イエスが語られました。私たちが住んでいる世界のことは、すべて父からキリストに渡され、任されて(口語訳・新異同訳・聖書協賛同訳)います。ゆえに、神に近づく唯一の道はキリストです。キリストによらないで神に近づくことはできません。これは当たり前のように、たいへん重要なことです。なぜ、そうなるのでしょうか。父である神のご計画だからです。主イエス・キリストを知っているなら、私たちは、父である神を知っているのです。主イエス・キリストを知らなければ、神を知らないのです。

三、わたしが休ませてあげよう

続いて、28節を見てまいります。△「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしののもとに來なさい。わたしがあなたを休ませてあげます。」とあります。28節以降は、弟子たちだけに語られたのではなく、より多くの人に語りかけたことばです。では、より多くの人とはだれなのでしょう。まず、主イエスが語られた時点においては、この

ことばを聞いたのは弟子たちをはじめとするユダヤ人です。そこには、律法を守ることに熱心でがんじがらめになっていたユダヤ人がいました。また、ガリラヤ出身の弟子たちのように、古いしきたりに囚われていたユダヤ人もいました。あるいは、律法とはほど遠い自堕落な生活をしてきた人たち——そういう人たちが主イエスのそばにいて、共に飲み食いをしていました——がいました。

この世に生を享けた人のすべてが望むのは、だれからも束縛を受けたくないことです。人は自由を求めます。ですが、聖書が語る福音によれば、人間は神のしもべにならない限り、罪の奴隷になってしまいます。ゆえにキリストを信じる者は、神のしもべ(奴隷)であることを大いに誇ります。そういうわけで、△「すべて疲れた人、重荷を負っている人」がだれであるのかが見えてまいります。だれでしょうか。主イエス・キリストに出会っていない人すべてです。主イエス・キリストに出会わなければ、疲れて、重荷を負っているのです。ユダヤ人であろうが、異教徒であろうが同じです。では、イエス・キリストを信じたら疲れないのでしょうか。疲れます。ですが、疲れません。もし回復しない疲れを背負っているとするなら、何か主が喜ばれないごだわりを持ち続けているか、隠している罪があつて——その

場合の罪とは、神に委ねることができないという罪かも知れませんが——、そのままにしている場合です。

続いて、29節を見てまいります。△「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。」と、主は語られました。△「あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。」は、ユダヤ人の慣用的な表現法です。悪い意味でも、良い意味でも使いました。主イエスの時代、「ラビ〇〇とくびきを共にする」という表現を用いていたようです。ですから、△「わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。」とは、「わたしの門下生となり、わたしから学びなさい」という意味になります。では、主イエスのくびきを負って、学ぶ人の特徴は何なのでしょう。それは△「わたしに安らぎを得る」ことです。では、主イエスに師事する道は楽なのでしょうか。そんなことはありません。厳しいです(↓マタイ5・20を参照)。ただし△「わたしに安らぎを得る」ことはたしかです。

最後に30節を見ます。△「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」と、主イエスは語られました。主イエスのくびきを負うことは、負いやすいです。重荷とはなりません。これは私共が経験していることです。